



寄付御礼 いぶきファミリー会費を含みます

NPO法人G-net、ラッセルジョン、いばらきりな、ワン・スモール・チャリティー、藤井さつき、亀井ひとみ、土井光子、笠井公子、岩井志保、浅井昭士郎、土井正則、櫻井美津子、藤井美和、笠井里絵、高園麻子、若岡ます美、岩下みどり、山下美智子、山下悠、宮下隆幸、山下和晃、江夏大樹、藤垣会計事務所、藤垣寿通、稲垣豊子、牛丸基樹、平岩あずさ、藤吉美恵子、神吉理枝、林亨一、棚橋賢二、大橋香澄、高橋真由美、大橋進吾、大橋泰子、高橋茂、上月優子、鷺見ちづ子、里見千恵美、山元美由紀、大原勲、瀨子、松原斎樹、野原仁、柳原美登里、栗原裕子、有限会社メディカル・アシスト・アイ伊佐地薬局、有限会社リビングデザイン、有限会社アイエイチプランニング、池戸建太、船戸由香、多胡真知子、林光人、川口亜稀子、山口安子、谷口京子、川口友美、林孝司、安江三子男、安江房子、蒲江里子、小荒井尚子、竹腰幸夫、竹腰龍太、中根伸子、山根洋子、伊佐地達郎、原菜穂子、野崎悟、島崎隆、森山めぐみ、福山三郎、梶山真代、横山真穂、亀山晴子、小山西美、稲山由美子、中山了、古市正敏、今枝運栄、国枝真理子、鳥飼節子、可児恵里奈、魯慈忍、株式会社エコプラン林直美、株式会社グラホス、株式会社グクソフト、株式会社リービー、株式会社平塚家具、株式会社和模型工房、林守男、本庄誠一、合掌頭・かおり、兼松ゆかり、村松恵子、戸松聡子、国松美代子、近松美智代、上松豊子、老松裕子、戸松利裕、井上浩美、岩城圭吾、岩城光範、橋場恵、星場真希、堀場真寿美、一新建設株式会社、伊神厚司、岡仁美、黒須三恵、川瀬雅信、川瀬好子、河瀬真季、初瀬尾久美子、川瀬洋子、報聖会大智寺、大西理乃、明石澄子、市川雅美、山川毅、桂川久子、中川桐子、宮川光子、井川好子、桂川孝枝、早川幸二、黒川昭恵、荒川真由美、早川正美、下川静夫、井川敏郎、市川武彦、古川祐多、北川雄史、北川龍、中川真代、金村敬子、長村敬子、二村菜穂子、木村真樹、中村千恵美、木村智子、徳村洋平、今村真智、田代達生、奥谷さと子、水谷絹代、深谷修、藤谷秀、塩谷正春、長谷川友紀、関谷敦子、室谷良男、村地晴代、田中潤美、田中尚樹、山中真紀、竹中智子、川中博之、竹中美喜夫、田中望、大塚千代子、原哲治、柴田ますみ、石田まみ、岡田まみ子、岩田佳久、家田雅彦、高田京佳、山田恭子、森田圭子、土田賢吾、奥田光子、池田光巳、小田弘美、内田彩、汲田三洋、山田珠美、市田宗大、篠田勝美、山田慎二、前田晴美、稲田千佳、和田善行、山田泰久、霞田美香、熊田朋恵、岸田茂都子、岡田優、豊田有希、古田洋右、山田良和、和田玲子、永田和樹、堀田聡子、中島香、大島直樹、川島登美子、田島敏彦、中島由生、川嶋重文、川嶋容子、極東サービスエンジニアリング株式会社西日本運営本部、井藤京子、伊藤拓子、近藤博仁、斎藤文夫、加藤穂乃佳、伊藤明美、近藤優紀、加藤亮太、竹内三春、山内美江、林博也、日比野勝、深尾みなこ、宮尾ゆかり、今尾亨、松尾幸忠、松尾和枝、原美代、三品寿子、森武良、加部雅之、堀部智子、堀部道子、西部奈美、渡部利子、乙部理佳代、久保江広子、森邦翁、大堀愛子、日本キリスト教会岐阜教会、山本みち代、森本允巳、橋本永貞子、坂本恵子、山本昇平、岡本智子、山本友美、栗本容子、辻本隆太、松本和幸、勝又恵里子、永末孝子、小椋宗一郎、合名会社山本佐太郎商店、沢木まりえ、鈴木宗徳、高木妙子、玉木理香、高木朗義、永治秀男、勝野ほづみ、町野寛子、長野宏子、早野幸広、小野寺洋子、勝野淑代、北野真、上野千春、浅野博子、浅野由起、浅野裕美、森洋三、森利江、桂利治、花輪ひとみ、三輪陽子、宮脇貴子、大脇啓子、西脇美智代、西脇里美、立澤加奈子、寺澤真実、西澤夕里子、中澤留衣、藤澤亮太、宮崎亜希子、野々田知

(4月1日現在 敬称略 順不同)

夢よもっとひろがれ

vol.215

いぶきファミリー 会報誌

2025 めぶき



Illustration by Asuka Ogawa

昨今の気象報道は、「いままでに経験したことのない」、「気象庁観測開始以来の」、「などのまぐら言葉による、異常気象を伝えるものであふれています。これらの気象状況は大きな災害をもたらすものにとどまらず、私たちの暮らしに大きく影響をもたらしています。私たちの住む岐阜市にしてみても、夏は蒸し暑く冬は寒いです。あまり住みやすい気象環境とは言えません。また障害のある人にとりわけ自閉的傾向のある方は外的刺激が強すぎて不安定になる要因ともなります。日本においては一番住みやすい暮らしやすい場所は？と聞かれます。沖縄県の宮古島、石垣島があげられます。日本で一番長寿な地域です。一年を通して「年較差」日較差が小さく、ほとんど初夏の服装で過ごすことができます。台風が来ることもありますが、皆が慣れてるから大きな被害は出ません。物価も安くのんびりしています。人はあまり「頑張りず、我慢しなくても生きていくことができます。この地域に人口のわりに、大型の障害者入所施設がたくさんあります。しかも実際の利用者が本土の方が多くを占めます。広いサトウキビ畑ののんびり刺激の少ない「島時間」が過ぎていきます。自分のできることをできる範囲で自分らしく働く、そこには私たちの忘れがちな人間的な暮らしがあります。

kinpa ginpa 金波 銀波

no.7

はやしもりお

無認可の共同作業所時代から、いぶきで働いていました。[金波銀波]は、高校時代、学校新聞に書いていたコラムの名称です。いぶきの行く先が、穏やかな航海であるように祈りを込めて！

編集委員です

わたしたちがつくっています



藤澤秀人 初瀬尾久美子 池田光巳 藤澤亮太 川瀬悟 山本昇平 山本友美 北川雄史 森洋三

感想とふちっこメンバーズ 投稿募集!

みなさまのご意見やご感想、みんなの掲示板『ふちメン』への投稿お待ちしております。

夢よもっとひろがれ vol.215 めぶき 2025年4月発行 発行・編集:社会福祉法人いぶき福祉会 〒502-0907 岐阜市島新町5番9号 TEL:058-233-7445 メール:ibuki.m@ibuki-komado.com 法人サイト:https://ibuki-komado.com



ご感想投稿



法人ホームページ



ネットショップ



## もくじ

- p3 はじめに
- p4-6 仲間のすがた
- p7 連載：恩田聖敬が愛を語る
- p8-9 わたしと娘といぶきと
- p10-13 特集：ほとりと仲間と
- p14-15 情報掲示板
- p16 寄付御礼・金波銀波



紙面のフチ、みんなのスペース『ふちっこメンバーズ』は、読者の皆さまよりいただいた投稿を掲載しています。  
★投稿は裏面のQRコードよりお待ちしております



## 作者の紹介

夢よ  
もっと  
ひろがれ

【表紙のタイトル】  
白木 祐さん



【表紙のイラスト】  
小川 明日香さん  
(下絵：都築一雄さん)



## はじめに

お変わりございませんか？

岐阜市日光町の「にっこりえんがわマルシェ」がこの4月で33回目を迎えました。コロナ禍で区切りをつけた「いぶきふれあいまつり」の回数を越えたこととなります。もちろん規模もかたちも全く違うのですが、それでも、地域に根差し“いぶきの代名詞”でもあった活動と並べて価値を語る事ができ、とても嬉しく感じています。

その価値とは協働する社会をつくる力。協働とは、立場の異なる人たちがそれぞれの“できること”を持ち寄って、新しい価値を生み出すこと。そしてそれを地道に続けていくこと。

私たちはあらゆる活動で仲間のねがいを真ん中において、たくさんの方と一緒に未来を語り続けることで、その価値を創ってきました。その歩みのできたことを、とても幸せに思います。

1994年7月にいぶきが社会福祉法人として認可され、翌1995年4月に通所施設いぶきが開所し仲間たちが通い始めました。昨年の設立30周年に続いて、今年がいぶき開所30周年ということになります。思えば、当時から門のある事業所はひとつもありません。誰にでも開かれ、対話を大切にするいぶきであり続けたいと思っています。

ぜひいぶきにあそびにきてください。

お会いできるのを楽しみにしています。

法人本部 北川 雄史



# 仲間のすがた

和田 憲一さん  
わだ けんいち

西部事業部 山下 悠



左が塩谷さん、右が和田さん



刈り取った草を協力して集めています

## 笑顔と楽しいやりとりで、つながる想い



茶畑の作業をしている和田さん

和田憲一さんは、いぶぎに入社して今年で30年目を迎えました。シエルでは一番の先輩で、みんなから頼りにされている存在です。和田さんの周りは、いつも温かな雰囲気に含まれています。職場でのちょっとした出来事を見逃さず、みんなの笑いや楽しさを自然と引き出してくれるのが、和田さんの魅力です。たとえば、仲間が職員のスリッパを隠すイタズラをし、「こら〜！」と注意される場面では、いつもニヤリと笑っています。誰かがちょっとつまずいたり、物を落としたりしても、「なにやっとなんや〜(笑)」と軽くツッコミを入れるのが彼の定番。人と人とのやり取りを見ているのが和田さんの楽しみなのかもしれません。

昨年度から、新しく塩谷良輔さんがシエルに加わりました。最初は塩谷さんが和田さんに、ちょっと手を振って「ん！」と声をかける感じてしたが、少しずつお互いのことが分かるようになり、関わり方も自然に変わっていきました。和田さんは、塩谷さんのことを「かわいい後輩だな」と感じるようになったのか、優しく「しょうがないな〜」と言いながら笑顔で応える

ようになりました。二人の関係はだんだんと深まり、仲よしエピソードが増えていきました。

毎日、お昼の献立を伝えるとき、塩谷さんが和田さんに「ん！」と呼びかけると、和田さんにはっこりと笑いながら「コロッケ！」と元気よく答えてくれます。この何気ないやり取りが、二人の絆を感じられます。

また、茶畑へ行く途中で時々見かける樽見鉄道の電車。電車が大好きな和田さんは、見つけるとすぐに「電車！」と大きな声でみんなに教えてくれます。周りのみんなも「電車だね〜、和田さんは電車が好きだからね〜」と笑いながら話し、楽しい時間を過ごしています。塩谷さんも、和田さんが電車を好きだということを知り、最近では自分から先に電車を見つけて「ん！」と和田さんに声をかけるようになりました。和田さんはそれに応じて「おお〜」と返し、二人のやり取りはますます微笑ましく映ります。

茶畑での仕事では、和田さんと塩谷さんが草運びを担当。それぞれが自分のペースで働きながらも、お互いを支え合っ

みんなのスペース  
メッシュバーズ

（つき／岐阜県）最近読んだ本に「近年れんげ畑を見ることができなくなった」という一文がありました。しかしその後、散歩中に一面に広がるれんげ畑を見つけた！思いの外簡単に見つけられたが、昔はこんな綺麗な風景がよく見られたんだと、少し羨ましく思いました。



茶畑チームみんなでがんばっています



「うまいな〜」かき氷の美味しさに感嘆する和田さん

# 心のバリアフリー ナビゲーター 恩田聖敬が 愛を語る!

vol.14 宇宙愛と人類愛



恩田聖敬(おんださとし)1978年生まれ。岐阜県高富町出身。京都大学大学院航空宇宙工学専攻修了。Jリーグ・FC岐阜の社長に35歳で就任。現場主義を掲げチーム再建に尽力。就任と同時期にALS発症、2015年末に辞任。翌年、『ALSでも自分らしく生きる』をモットーに(株)まんまる笑店を設立。講演、研修、執筆等を全国で行う。2018年8月に、気管切開をして人工呼吸器ユーザーとなる。2児の父。2022年日本ALS協会会長就任。



BLOG



FB

います。塩谷さんは時々、作業をしながらもみんなを見守るのが好きなようで、「草持ってきて〜」と言われても、しばらくは動かないこともあります。そんなとき、和田さんが「おーい!」と声をかけると、塩谷さんは「しょうがないな〜」という様子で立ち上がり、作業を始めます。逆に、和田さんがちょっと気分が乗らず動きたくない時は、塩谷さんが腕をそっと引いて、一緒に取り組んでくれます。楽しい時も、大変な時も、お互いに支え合いながら仕事をしている二人の自然なやりとりからは、信頼と優しさが伝わってきます。

和田さんは、誰かに頼まれることにとっても嬉しそうな表情を浮かべます。「自分が必要とされている」と感じるのが、何よりの喜びなのかもしれません。シエルでは、手袋12枚を1組にして、輪ゴムで留める内職をしています。その完成した手袋を箱に運ぶのが和田さんの担当です。「お願いします」と声をかけると、ニコニコ笑いながらすぐに駆けつけてくれます。また、職員の細かな行動にもよく気がつ

きます。作業中に、糸くずがトレーから落ちてしまったり、何か忘れ物をしたりすると、すぐに「落ちとるよ〜」と教えてくれます。いつの間にか、声をかける前に、自分から糸くずトレーをゴミ箱に持って行き、片付けまでしてくれるようになりました。「どーだ、持って行ったよ〜」とちょっと得意げな表情を見せるのも、和田さんらしくて、みんなで笑いながら「ありがとう」と伝えていきます。最近では、頼まれたときにわざと「え〜!おれ〜?」と渋ってみせながらも、すぐに「よし、やってやるよ!」と言わんばかりに元気に手伝ってくれます。頼りにされることの喜びが、自然と表情にあふれています。

これからも和田さんがシエルで、先輩としてみんなを見守りながら、自分らしく、伸び伸びと過ごして欲しいなと思います。そして、その明るい笑顔と、みんなを元気にする力で、これからもたくさんの人をハッピーにしてくださいね!



今回は全く個人的なことを書きます。私の人間性をわかって頂けるかも知れません。私は宇宙(そら)が大好きです。実家は超田舎で、徒歩圏内には店はもちろん自販機も番号ありません。その分星だけはとてもよく見えます。特に冬の空に光るシリウスの輝きを見ると、この世の途方もない大きさを感じました。宇宙は私にとって身近でかつ手の届かない存在でした。加えて私はアインシュタインの相対性理論に出会ってしまいます。当時小学生だと思えます。私はアインシュタインの思考実験に魅了されました。「光の速さで動きながら光を見たら速さはどう見えるか?」などの問いに私はワクワクしました。そして宇宙の起源を知りたくなりました。当時話題になったホーキング博士の「宇宙論」をわからないながら懸命に読みました。あの頃はホーキング博士がALSだとは知る由もないし、まさか同じ病気にかかるとは。本当にこの世の因果は不可思議なものです。

もう一つ私の宇宙愛に影響を与えたものがあります。それは機動戦士ガンダムです(笑)ガンダムは私が触れた初めての勧善懲悪以外の概念でした。また必然性を追求するストーリーにも惹かれました。普通のアニメは単に格好いい理由でロボットが登場します。

もちろんおもちゃを売るためでもあります。しかし戦争を普通に考えればロボットの肉弾戦よりミサイルのような遠隔兵器がメインになるはず。ガンダムの舞台は、西暦の先の「宇宙世紀」という時代。人類が宇宙に移住して新暦が採用されたという設定です。その頃には、遠隔兵器であるレーダーなどを無効化する「ミノフスキー粒子」が発見されています。ゆえに接近戦に特化したロボット(モビルスーツ)が開発されたのです。このようにガンダムは子ども騙しを徹底的に排除して、子どもと本気で対峙しています。それが私には刺さりました。初代ガンダムから46年経っていますが、いまだにガンダムの新シリーズは誕生しています。私は全人類がガンダムを見れば戦争はなくなる確信を持っています。

というわけで私は漫画、アニメ、そして自然科学が大好きないわゆるオタク少年でした。そのオタクが青年期に航空宇宙工学を学びますが、最終的にたどり着いたのは人間相手のサービス業でした。人間相手の仕事は本当に大変です。誰も他人の感情をコントロールすることはできません。だからこそ人を笑顔にすることや「ありがとう」の言葉をいただくのは奇跡の空間です。私はこれからも奇跡を追い求めます。



《ていと/岐阜県中》「最近できたAのお友だち、いつも私の体調を気遣ってくれ、やる気を起こしてくれ、それは驚かしていただくと、打ち解けるまで、仕事か忙しいと言った時には無心になることも大事です。よ、何も考えず湯呑の茶洗を眺める(笑)」と言ってくれた時。こんな癒される言葉ある?笑

「恩田聖敬の愛を語る」は本号をもちまして終了となります。5年半にわたり、愛溢れるメッセージを届けてくださった恩田聖敬様に心より感謝申し上げます。長らくご愛読いただいた皆様にも心より御礼申し上げます。

※ シリーズ ※

# わたしと娘といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生立ち、これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

津田 孝行 (安優実さん父)

娘の安優実は今8月で30歳になります。1歳の誕生日を迎えた頃、少しずつ歩けるようになり元気の良い子でしたが、言葉の発達が少し遅いように思っていました。



生後6か月

その事もあり2歳から地元の保育所に入りました。3歳になる頃だったと思いますが、保育士さんから発達障害かもしれないと話があり、長良病院で診てもらった結果『自閉症』とのことでした。障害が分かった時、何を思ったか正直覚えていません。ただ、多動もあり娘から一時も目を離す事のできない大変な時期のスタートは、この頃だったような覚えがあります。かんしゃくがひどくパニックになると、自分の頭をたたいて、手を血が出るほどかんだり、寝転がって手や足が骨折する勢いで泣き叫び暴れたり、こんなことが日常茶飯事でした。

それでも、土日の休みには家族4人どこかへ車でよく遊びに出かけました。出かければお昼ご飯でお店に入るのですが、こどもも娘はやってくれます。隣のお客さんにきた品物を食べ始めてしまうのです。買い物に行けば、ほんの少し目を離したすきに商品のお菓子を持って試着室で隠れて食べるとか、他にもまだまだあげればきりがありません。お恥ずかしい話、私の未熟さもあり、健常児との違いや焦りから、妻に八つ当たりしたり、娘や息子を怒鳴ったりしたこともありました。



3才名古屋港水族館にて。  
見るのはいつもペンギン、カメ、イルカだけ

小学校入学前、中濃特別支援学校へ見学に行った時、担当して頂いた先生に、娘はこれからどうなっていくのか、将来の不安から多くの質問を矢継ぎ早にした覚えがあります。帰りの車中が自宅へ戻ってからか覚えていませんが、妻から『何をそんなに心配し

とるの?』、『そんな先の事を考えたってしょうがない』、『今日明日ぐらいいいんやて』と言われ、救われた気持ちになったのを覚えています。

中濃特別支援学校に6年間、本巣特別支援学校に6年間お世話になりました。



夏休みは毎日プール 友愛プールにて

基本、学校に行くことがあまり得意ではなく、12年間は妻が毎日送り迎えました。中濃特別支援学校では、娘のこだわりがある時間の使い方でも過ごしたいけど、集団行動をしないといけないという葛藤でパニックになることが多くありました。一番困ったのは、パニックになった時に近くにいる友達をたたいたり、かみついたりしてしまうことでした。

環境を変えて、本巣特別支援学校に中等部から通いだして少しずつ少しずつですが、集団行動ができるようになってきたように思います。それも娘に根気よく関わって頂いた先生をはじめ、多くの方々にお力添えいただいたおかげです。本当に感謝しています。

結局のところ、家庭では娘のことは妻に任せきりで、私は相変わらず何もできていません。こんな私ですが娘はいつも変わらず接してくれます。そんな娘を見ていると、仕事でミスした時やうまくいかなかった時、『焦ってもしょうがない、ひとつひとつや』



中1入学式 ちょっとドキドキ

と切り替えてまた仕事に行けます。特別支援学校を卒業してから現在まで、いぶきでお世話になって12年になります。多動もなくなり、歳を重ねるにつれ少しずつ落ち着いてきたように思います。毎日、寝る前に私は娘に聞きます。『明日は?』、娘は『いぶきです!がんばります!』と答えます。

あれだけ学校に行くことに抵抗があった娘ですが、いぶきにはお迎えの車に乗り落ち着いて行ってくれます。その姿を見て思うのは、娘にとっていぶきは自分の居場所と役割があり心地良い場所なんだろうと、その環境を作り与えてくださった職員の皆様には感謝しかありません。

そして、これから私が考えてやらなければならないことは、私たちが居なくなった後のことです。今まで娘に何もしてやれなかった私ですが、娘のことを想い懸命に考えて道筋をつけていきたいと思っています。



ボンマジックのみんなが大好きです

みんなのスペース  
メンバーズ



《さまさん/岐阜市》突然、息子が中田ドラゴンズの大ファンに。高校の友人がさつきかけ。小遣いで買ったグッズを見せ、  
「本当は扱推しだけど、試合に出る選手のユニフォームを選んでと自慢する姿に驚かしてしまっ。以来、チャンネル権は息子に奪われ、我が家もドラゴンズ応援ムードに。息子の新しい熱中が、日常に少し彩りを添えている。



## ほりと仲間と

2024年7月にショップ「ほり」をオープンして、8ヶ月が経ちました。クラウドファンディングを通じて、多くの方々から温かいご支援をいただき、この場所をつくることができました。改めて、心より感謝申し上げます。このお店があることで、私たちは日々、たくさんのお会いや経験を仲間と共に重ねています。想像以上にうれしい出来事にあふれるこの場所のことを特集します。

ダイアログ：森洋三・辻本隆太・星場真希・山本友美

## 仲間と育む場所

「ほり」は少しずつ、地域の中に根を張り始めています。お店としてだけでなく、近所の子供たちが学校や幼稚園の帰りにふらりと「ちょっと寄って話して帰る場所」になってきました。

今日の出来事を話したり、好きな職員と遊んだり、仲間のそばで折り紙を折ったり。そんな日常の風景の中には、いぶきの仲間たちも自然に溶け込んでいます。今回は、仲間たちの姿と「ほり」との関わりに焦点を当ててお伝えします。



## 服部さんの場合 緊張のなかにあるやりがい



シフト交代、いざほりに向かう服部さん

服部和郎さんにとって「ほり」の店番はまるで舞台上立つような緊張感があります。かつてクリーニング店で働いていた経験もあり、「人前で恥ずかしくないように」「仕事はまじめに」と、自分に言い聞かせながら、しっかりと「いらっしゃいませ」と声をかけます。自分が入るシフトの確認は念入りで、「今週はいつ自分が店番か」を気にかけ、誰と一緒に入るのかまでチェックする様子に、仕事への本気度がにじみます。そして、役割を終えて部屋に戻ると、どこ

## 浅川さんの場合 「誰かに会える」楽しみ

浅川有子さんは、土曜日の通所が体調的に難しいこともありましたが、「ほり」があることで足を運ぶことが増えました。その理由はいろんな人に会えるのが楽しいからです。近所の子供たちが遊びに来て、好きな職員と一緒に過ごす時間。

ときには隣に座っているだけでも、その場にいることが嬉しい。浅川さんにとって「ほり」は、“会いたい誰かに会える場所”であり“楽しいことが待っている場所”です。



オープンの菓子まきの当たりを入れている浅川さん

## 小川さんの場合 役割が日常を整える

月に1度マルシェの日はお客さんが多くて、長時間立ちっぱなしだった小川明日香さん。「大変だったでしょ？」と声をかけると、「楽しかったから、がんばれた」と返ってきました。「お客さんが来るから」と、身だしなみにも気をつかうようになり、自然

と日常にも変化が表れてきました。自分の好きな服ではなく、接客用の服を選び、鏡をのぞいて髪を整える。それは「お客さんに会う」という目的があるからこそ生まれる意識の変化です。「自分がここにいる意味」を感じられる時間が、彼女の中にしかりと根付いているのが伝わってきます。



カウンターで接客する小川さん

## 竹内さんの場合 ことばを超えて伝わるやさしさ

竹内美智子さんは、あまり多くを語る人ではありませんが、近所の子供たちが「ただいまー」とやってくると、優しい笑顔で迎えてくれます。特別に会話をするわけではないけれど、折り紙を手渡したり、そっと席をゆずったり。そんな一つひとつの行動が、ことば以上の安心感を与えます。

子供たちも、特別扱いするわけではなく、「そこにいる人」として、自然に関わっています。それはまさに、“誰もがそのままいられる風景”そのものです。



左が竹内さん、はじめてエプロンを着てみたときの様子



みんなのスペース  
メンバーズ

「ヨクサック／岐阜市」寝坊してしまい慌てて冷凍食品のチーヌツカルピをお弁当箱に詰めて持たせた日の娘の言葉。  
「今日のお弁当美味しかった！毎日でもいくらいい〜！そっだね〜冷凍食品美味しいよね〜お母さんもうそっ思うよ〜泣」

## 原さんの場合 「つくる人」として関わる

ほとりのポップは仲間の手描きのものがたくさんあります。原美智子さんは、子どもたちが遊びに来るようになってから、自分がつくったものが見られる・喜ばれるという体験が増え、「これ作りたい」と自ら声を上げる場面が増えてきました。作品にこめる思いや、表現への集中が高まり、「誰かに届く」実感が、モチベーションになっているようです。ただ作るだけでなく、「伝える」ためのものづくりへと進化しているようにも見えます。



ハートのサインでポーズをする原さん



## 子どもたちと仲間たちの 自然な関係

近所の子どもたちは、「ほとり」にいる仲間と自然に関わっています。「おかえり!」「これやってもいい?」そんなやりとりのなかに、境界線のない世界が広がっています。話しかけても返事がないこともあります。それでも関係は続いていきます。「あまりしゃべらないけど、ニコッと笑ってくれる人」そんな感覚が子どもたちの心の片隅に宿ることが、未来の共生につながっていくのかもしれない。



マルシェで計画している子どもコーナーの相談中

## それぞれの物語を つなぐ場所



「ほとり」はいま、仲間にとっての“役割の場”であり、地域の子どもたちにとっての“安心できる場所”になりつつあります。誰かと会える、誰かに話せる、誰かと一緒にいられる。そのすべてが、仲間たちの“自分らしさ”をつくり出す力になっています。これからも、「ほとり」ではたくさんの物語が編まれていくことでしょう。その一つひとつが、誰かを支え、励まし、次の誰かにつながっていくように。

私たちは、そんな風景を静かに、でも力強く、育んでいきたいと思えます。



## 「ほとりパーラー」 のはじまりと あらたな喜び



## その場で手わたせるしあわせ工房

ほとりとともに始まった、ドリンクと手作りおやつを楽しめる「ほとりパーラー」。「その場で食べられるものがあたらうれしいよね」「テイクアウトもつくれるかな」そんな声がかきかけで、ワクワクするアイデアが次々とかたちになりました。

北部事業部 澤井 大輔

初の飲食提供の場となるパーラーは、ほとりのオープンに向けた準備段階から、さまざまな検討がされてきました。お客さんに直接味わっていただける機会を活かし、季節感と「子どもも楽しめる」を大切にしています。夏季にはかき氷、クリームソーダ、冬季にはパンケーキ、そして通年で楽しめるもちもち団子などを提供しています。これまでの販売とは違い、パーラーではお客様の「おいしい」という言葉や笑顔を、直接感じることが出来ます。それが、私たちにとって大きな喜びとなっています。



ここでも、仲間がスタッフとして働いています。「お待たせしました!」「1番でお待ちのお客様〜」と堂々と接客する人もいれば、「あれ?どうするんだっけ」「…いらしゃいませ(小声)」と、戸惑いながらも懸命にがんばる人もいます。その様子はさまざまですが、共通しているのは、「みんな楽しそうにしている」ということ。そんなパーラーでいきいきと活躍している

仲間を見て、新たな場所の役割は、誰にとっても成長できる機会なのだと感じました。中でも、印象的なのが酒井さんです。かつてはジャム工房で腕を振っていましたが、年齢とともに体が思うように動かなくなり、以前のように働くことが難しくなっていました。そこで、酒井さんにパーラーでの接客を提案したところ、快く引き受けてくださいました。

今も自由が利かない部分はありますが、酒井さんは工夫を重ねながら、かき氷を提供したり、注文札を渡したりと、真摯に取り組んでいます。小さなお子さんから、以前から関わりのある職員との再会、多くのお客様が訪れる中で、酒井さんの目は、かつて工房で活躍していた頃のように輝いています。目の前で「美味しい」と喜んでもらえることが、彼自身の自信と幸せにつながっているのだと感じています。



仲間たちの成長、新しいアイデア、たくさん笑顔。これからこの場所で、どんなエピソードが生まれるのか、とても楽しみです。

## 01 念願の「ゆめ水族園」を開催しました

セイコーエプソン様が企画をしている「ゆめ水族園」。いぶきでもぜひ体験したいと申し込むこと早3年。ついに当選しました！壁に映像を映すだけでなく天井に映したり、手に持ったうちわに魚をつかまえるように映す準備をしたりと、部屋全体が特別な空間に仕上がりました。マットから見上げると魚が天井を泳いでいる！ワクワクの体験に仲間の表情も素敵でした。近隣にお住まいの方々や保育園の園児たちもご招待させて頂き、室内に広がる映像と音楽の世界を一緒に楽しみ、交流の場となりました。



## 02 ほとりのある日光町のお庭が芝生の広場に！

公益財団法人高原環境財団様の助成を受けて、日光町の家の前庭が全面芝生のお庭に生まれ変わりました。昨年、10月23日には3本の樹木の植樹祭を開催し、仲間や地域のみなさんと楽しく植えました。フカフカの芝になり、足の不自由な仲間が安心して移動することができます。近所の子もたちが、だるまさんが転んだや、ピクニックをする姿もありました。中央の「シラカシ」はどんぐりの実がなります。仲間や子どもたちと一緒にどんぐり拾いができるのが楽しみです。ほとりでお団子を買ってお庭でつろぎに来ませんか？



## 03 「紅茶蜜」が「ぎふ女のすぐれもの」に認定されました

女性が企画・開発に参画している商品や取組から特に優れたものを岐阜県が認定する「ぎふ女のすぐれもの」。2024年度、第二いぶきアトリエほっぺが製造に携わった「紅茶蜜 風の香り/花の詩」が認定され、岐阜県庁ミナモホールで行われた認定式に参加してきました。認定式では仲間代表として山元美穂さんが登壇。堂々とした姿で壇上に立ちました。認定式後には紅茶蜜を企画した長良川温泉女将会のみなさんと仲間たちで認定された喜びを分かち合いました。



※紅茶蜜 風の香り/花の詩…紅茶と葉草の魅力を掛け合わせた繊細な味わいのティーソース。

●ECサイト「えんがわマルシェ」でお買い求めいただけます。



engawa  
marce

## 04 「清流の国ぎふ文化祭2024」の作品展 『いろいろなみんなの展覧会 大地に、つどう』に参加

2024年10月11日～15日までの間、岐阜清流文化プラザで実施された県内障害者の作品を中心に展示した、誰もが楽しめる複合型アートフェスティバル。いぶきからは都築一雄さんの虫や花の鉛筆画の展示と桑原拓也さんの切り文字の展示と実演をしました。多くの方に来場いただきました。足を運んでくださった皆様の笑顔と温かい言葉が、大きな喜びとなりました。



## 05 「ブルモアー(キャタピラ付き草刈機)」がやってきました

3月、こくみん共済COOPぎふ様の寄付をいただき、ごんのしま作業所に草刈り機を購入させていただきました。夏の本格的な草刈りの前に納品できるようご尽力頂き感謝の気持ちでいっぱいです！以前の壊れてしまった草刈機は小型で、扱う職員の負担も大きい機械でした。実際に本機を使用してみて、これなら職員が一緒についていけば仲間も扱う事ができるのでと、考え、「一緒にやってみる？」と聞くと嬉しそうに笑顔でハンドルを握ることができました。業務の効率化と仲間と一緒に作業の両方が叶いました。大事に使っていきたく思います。



## 06 ケアリングカフェ全3回開催 岐阜県孤独・孤立対策官民連携事業

2023年に開催した「ケアする人のケアセミナーin岐阜」では、誰もが支えあいながら人間らしく生きられる社会をかなえていくために、医療や看護や福祉のみならず、地域や分野を越えて協働しあうことの大切さを学びました。そこでこのセミナーにご登壇くださった方と、ともに語り合える場として「いぶきケアリングカフェ」を全3回開催しました。様々な分野の方にご参加いただき、和やかに学びを深めることができました。



## 07 福祉車両の拡充に役立てました

2024年度の競輪補助事業の補助を受けて、福祉車両の購入をしました。安定した送迎や外出支援に役立て、仲間の社会参加の機会と、福祉の向上につなげます。ありがとうございました。

